



進路ニュース

平成29年7月号
藤代高等学校進路指導部



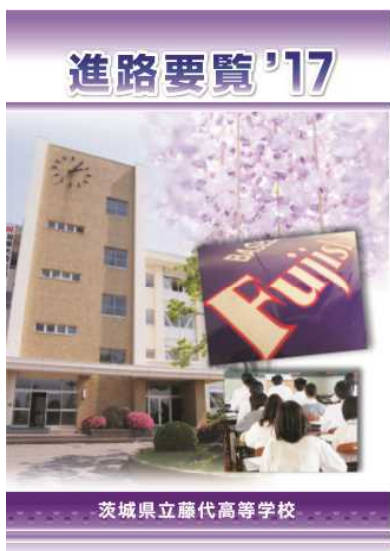
夏休みを迎えました。この夏は、幅広くできるだけ多くの大学のオープンキャンパスに参加しましょう。大学をよく理解し、自分の目標とする大学をしっかりと定めて、自分の進路実現のための努力をしてください。3年生にとって夏休みは勝負どころです。自分にとって学習に専念できる学習環境と学習習慣をつくり、学習時間を確保してください。充実した夏休みになることを期待しています。

1 『進路要覧 '17』

今年版の『進路要覧』が出来上がりました。掲載内容は、各種入試についての説明、3月に卒業した先輩の進路状況・入試結果・合格体験記・受験報告書、出願までの校内手続き、看護医療系、専門学校、就職、公務員など以下の通りです。

進路要覧目次

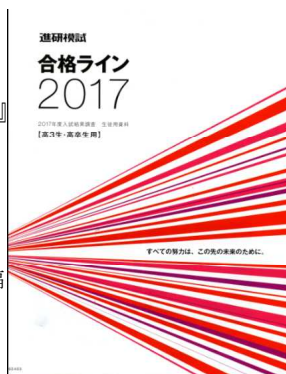
- 1 進路状況
 - (1) 卒業時の進路状況推移 第1回生～第41回生
 - (2) 第42回生(平成29年3月卒業)進路状況
 - (3) 進路希望状況
- 2 進路希望をかなえるために
 - (1) 進路実現までのロードマップ
 - (2) 学習方法と学習習慣の確立
 - (3) 志望校の選定
 - (4) オープンキャンパスへの参加
 - (5) 大学入試について
 - (6) 大学入試センター試験
 - (7) 国公立大学一般入学試験
 - (8) 私立大学一般入学試験
 - (9) 推薦・AO入学試験
 - (10) 推薦入試校内規定
 - (11) 指定校推薦一覧(前年度の主な大学)
 - (12) 英語外部検定試験を利用する入試
 - (13) 進学のための経済学
- 3 入試結果
 - (1) 過去5カ年 大学別 合格者数(実人数)
 - (2) 平成29年度 第42回生入試結果(延べ人数)
 - ① 学部・学科別 合格者数一覧
 - ② 入試方式別 合格結果
 - ③ 補欠・追加合格について
 - ④ 一般入試 1人あたりの受験校数
- 4 入試の流れ・校内での手続き
 - (1) 3年夏以降の進路の大まかな流れ
 - (2) 一般入試の場合
 - (3) 公募制推薦入試の場合
 - (4) 指定校制推薦入試の場合
 - (5) AO入試・自己推薦入試の場合
 - (6) 校内手続きに必要な書類(見本)
 - (7) 募集要項(願書)について
 - (8) 調査書・推薦書等の進学用証明書発行について
 - (9) 8月以降の模擬試験受験とセンター試験受験について
- 5 看護・医療系を目指す人たちへ
 - (1) チーム医療に携わる職種を知ろう
 - (2) 看護・医療系の仕事について
 - (3) 看護・医療系の入試環境
- 6 専門学校について
 - (1) 専門学校について
 - (2) 認可校と「無認可校」
 - (3) 「専門士」と「高度専門士」
 - (4) 専門学校の8つの分野
 - (5) 専門学校選択時の注意点
 - (6) 資格・検定について
 - (7) 専門学校の入試について
- 7 就職について
 - (1) 民間企業就職の流れ
 - (2) 求人票の閲覧
 - (3) 藤代高校への求人
 - (4) 過去2年間の実績
- 8 公務員について
 - (1) 公務員採用試験の流れ
 - (2) 高校生が受験できる公務員試験の種類と日程
 - (3) 茨城県内の市役所・町役場などについて
 - (4) 採用試験の内容
 - (5) 公務員と民間企業の併願について
 - (6) 藤代高校過去4年間の就職実績
 - (7) 公務員試験日程(平成29年度)
 - (8) 作文試験過去の例
 - (9) 過去の試験倍率一覧
- 9 合格体験記
- 10 受験報告書



在校生に『進路要覧』とともにぜひ活用してもらいたいのが、先日全員に配布した『進研模試 合格ライン2017』です。この冊子に掲載されているのは、この春の各大学の合格者が1～3年の時点で、それぞれ各回の進研模試でどれくらいの成績であったのか、各大学の合格者の各模試における得点・偏差値の平均を算出したものです。進研模試は全国で40万人が受験しており、データとして信頼できるものです。志望校に合格するには、各回の模試で何点ぐらいとればいいのか(※偏差値よりも得点に着目)、自分の「目標設定」の目安として大変有効な資料です。ぜひ活用してください。

『進研模試 合格ライン』
3年生用

6月マーク模試からセンター試験まで各大学の学部・学科・入試方式別に合格者の平均得点・平均偏差値を掲載



『進研模試 合格ライン』
1・2年生用

1年7月模試から3年4月模試まで各大学の学部・学科・入試方式別に合格者の平均得点・平均偏差値を掲載



2 オープンキャンパスに行こう

いろいろな機会に夏休みにはオープンキャンパスに参加するように言われていると思いますが、なぜオープンキャンパスに行かなければならないかというと、以下の3点のためだと私は考えています。

(1) 志望理由を見つけるため

2018年度入試より茨城大学教育学部の二次試験に面接が追加されることになりましたが、その他にも国公立大学では公募推薦や後期試験、私立大学でもAO・推薦入試などでは、面接・小論文・志望理由書などの様々な形を通して志望理由を尋ねられます。さらに言えば「同じような学部を持つ大学がたくさんある中で、なぜ他大学でなく、ほかならぬ□□大学なのか」という質問に対して具体的に答えられなければなりません。その時、環境が・・・とか、設備が・・・とか、少人数制だから・・・などと、パンフレットやウェブサイトを書いてあるような陳腐なことを答えたらアウトです。そこで「オープンキャンパスで〇〇先生の模擬授業を聞いて△△の話に感動したので、〇〇先生の下で～について研究したい」と答えたらどうでしょう。〇〇先生はその大学にしか存在しないので、ほかならぬ□□大学でなければならない、またとない理由になります。

オープンキャンパスでは空欄を埋められるように、よく話を聞いておきましょう。

(2) 入試当日の下見のため

入試の直前になって下見をする人がいますが、直前は時間をもったいないし、真冬の厳寒期に行き、受験前の大事な時期に風邪でもひいたら大変です。今のうちに行って経路をチェックし、所要時間、忘れ物をした時に途中で買物ができる場所や学内での校舎の配置などを確認しておこう。

(3) 大学がチェックしているから

本校で5月に実施した国公立大学説明会のなかで、ある講師の先生が有益な特選情報を語ってくれましたね。それは「大学は自分の大学に入学したいという希望の強い生徒に是非とも入学してもらいたいのので、何回大学に来たか、全部記録している。何度も大学に来てくれている生徒には、なんとか合格してもらえるように入試の時にあれこれ工夫する」ということでした。もしかするとオープンキャンパスは、あなたにとっての大学合格への優先チケットのようなものになるかもしれません。

また、そのほか以下の通り学年別のポイントがありますので、志望大学には何回でも足を運んでください。

【1年生・文理選択のために】

文系、理系の選択をする前に、それぞれの学問の中味をオープンキャンパスを通じて体験してみましょう。あなたの進路を、定期考査や模試の成績だけで決めて後悔しないために。また、大学に行くかどうかはまだ未定という人は、大学がどんなところか自分で一度体験してみてください。

【2年生・第1志望校を決めるために】

それぞれの学部・学科がどんな将来に繋がっているのか、オープンキャンパスを通じて調べてみましょう。学部・学科によって中味は色々です。推薦入試やAO入試で進学する場合、実はもう受験本番まであまり時間がありません。2年生のうちに具体的な目標を定めよう。

【3年生・受験校を決めるために】

第1希望校以外にも併願校として受験を考えている大学は、この夏休みのうちに必ず見ておきましょう。入学した後で「こんなはずじゃなかった」と後悔することがないように！「去年行ったから今年はもういいです」という人もいますが、たった1日でその大学のすべてが分かる訳ではありません。特に推薦入試やAO入試で受験する人にとっては、その大学が自分に合っているかどうかはとても大事です。また、入試の面接試験ではオープンキャンパスについての質問がよくされています。オープンキャンパスに「何度も参加している」というのは、その大学に「ぜひ入学したい」という強いアピールにもなります。

アクセス	交通手段，所要時間，交通費（定期代），コンビニ・文具店等
授業 研究内容	学科・コースの研究内容とカリキュラム（自分の興味ある学問か？） 授業の形態（大人数の授業が中心か少数の授業が中心か？） （講義形式の授業が中心か実習形式の授業が中心か？） （ゼミの実施時期は？）
資格・就職	取得できる資格（無理なく取得できるのか？ 取得率・合格率は？） 就職と大学院進学の実績（就職率・進学率は？ サポートの態勢は？） インターンシップ・留学制度 ※合格率・就職率等は何の人数を分母にしているかに注意
施設	図書館，研究室，実験室，学食，売店，キャンパスの広さ
雰囲気	学生・職員の印象，キャンパスの雰囲気，大学周辺の環境 男女の割合，クラブ・サークル活動
学費	入学時に納付する費用，４年間の総費用，奨学金制度
入試	入試方式，出題科目，入試スケジュール，出題傾向

それでも第一志望をあきらめずに自分を信じて勉強した人は年が明けて（つまり年明けに試験範囲の勉強が一通り終わって）から急激に成績が伸びて、センター試験本番で70%以上得点して見事に合格を勝ち取ります。

「D判定は『大丈夫のD』」…これは、ある卒業生がいつも唱えていた言葉です。その生徒はこの言葉を都内有名大学に通っているお兄さんから教わったそうです。**東京大学に合格した現役生も大半はD判定**だといいます。藤高生のみなさんも最後まで第一志望をあきらめることなく頑張りましょう。先生方はいつでも応援しています。

2017年度入試結果分析

河合塾

センター試験からみる、全統マーク模試成績の下限

	センター試験 自己採点結果	ボーダーラインのめやす (大学)	9月 第1回全統マーク	9月 第2回全統マーク	10月 第3回全統マーク	12月 全統センター試験 プレテスト
5 7 理 系	90% ~	東京大・京大・医学部 医学科	60% ~	67% ~	68% ~	71% ~
	85% ~	東京工業大・東北大・大 阪大・名古屋大など	53% ~	57% ~	59% ~	63% ~
	75% ~	北海道大・筑波大・千葉 大・東京農工大など	41% ~	43% ~	47% ~	49% ~
	65% ~	埼玉大・群馬大・信州大・ 電気通信大など	31% ~	36% ~	39% ~	41% ~
5 7 文 系	90% ~	東京大・京大など	57% ~	61% ~	67% ~	69% ~
	85% ~	一橋大・東北大・大阪大・ 名古屋大など	49% ~	53% ~	56% ~	61% ~
	75% ~	北海道大・筑波大・横浜 国立大など	37% ~	42% ~	47% ~	51% ~
	65% ~	宇都宮大・新潟大・愛媛 大など	31% ~	35% ~	39% ~	41% ~

➤ 2017年センター・リサーチのデータより、センター試験の自己採点結果と各回のマーク系模試の成績との相関。

➤ 表の見方：センター試験本番の5-7理系で得点率90%以上の受験生グループは、5月の模試では得点率60%を下限とする成績を残していたことがわかる。12月かセンター試験までも、得点率で20%前後は伸びている。

4 平成30年度入試の小論文トレンド

(1)トレンドは「グローバル社会」と「AI」

すでにAO入試が始まっている生徒もいれば、夏休み明けに推薦入試を検討している生徒もいると思います。そこで欠かせないのが小論文と志望理由書です。学研の資料から小論文のトレンドを見てみましょう。今年のトレンドはなんとと言っても「グローバル社会」と「AI」です。

(2)バラ色の「グローバル社会」?

みなさんは「グローバル社会」という言葉からどんなことをイメージしますか?卒業生に質問したところ、みんなグローバルを好ましく思うようで、「国際化」「世界がつながる」「世界が一つになる」「チャンスが増える」「日本的な団体主義から個人の能力が生かされる社会へ」などという答が返ってきました。

しかし、良いイメージを思い浮かべた人は小論文的には大間違いです。**グローバル化とは「世界規模の激しい競争原理が展開された格差社会」**に巻き込まれることです。世界が一つになると言うよりはむしろ、社会がさまざまな**格差により分断される**イメージです。したがってグローバル化を論じる時は、教育格差・健康格差・地域格差・世代間格差などに対して問題意識をもたなければなりません。

(3) AIは人類の敵or味方?

右図にあるように筑波大学をはじめ、多くの大学で出題された人気テーマのAIですが、これも生徒にイメージを聞いてみると以下の2つが主流になります。

①「AIがどんどん進化して人間の仕事が奪われ、最後には人類は機械に支配されてしまう」といった「マトリックス」とか「ターミネーター」のようなハリウッドSF大作映画型悲観論。

②「ほとんどの仕事を機械がやってくれるようになるので、人間は働かなくて済むようになる」といった、かなり虫のいい、のび太の白昼夢のようなドラえもん型楽観論。

どちらも極端過ぎるでしょう。私たちはこの両極端に陥らず、事態を冷静に見つめる必要があります。なるほど現在は、AIが自ら学習するようになり、プロ棋士がコンピュータに負けてしまう時代です。今後は様々な職業がロボットに置き換わってしまうという予測もあります。AIを恐れるのはもっともです。ただ言えることは、少子高齢化が進む日本は労働力確保のため、こうしたスマートマシンの**導入が避けられないというジレンマ**があることです。するとAIロボットの活用が人間の雇用にどう影響するか、どうロボットと共存していくのかという事が基本テーマとなることがわかります。そこから**どのような仕事、どのような人が生き残るかという新しい格差問題**が生まれてきます。このことに対して問題意識を持つことが大切です。

(4) 2001年以降で、1番の流行語は「格差社会」

ということで、「**グローバル社会**」も「**AI**」もつきつめると「**格差社会**」が問題になっているということがわかります。日本の貧困率は過去最悪であり、また米国でトランプ大統領が誕生したのもアメリカ国内の格差が深刻化しているからであります。2001年以降(生徒のみなさんが生まれて以降と言ってもいいでしょう)の歴代流行語大賞の1位もまた「格差社会」だそうです。当然、「格差社会」そのものを出题している大学も神戸大学や埼玉大学をはじめとして多数あります。

(5) いい志望理由書とは

入試を控えた3年生だけでなく、**2年生も冬には志望理由書を書く**ことになります。なぜ大学が志望理由を聞くのかということを考えてみてください。単純に学力が高い生徒が欲しいのなら、入試の得点が高い順に自動的に合格させればよいのです。にもかかわらずわざわざ面接なり、小論文なり志望理由書を課すということは理由があるはずです。大学は学力が高くても「大学に入ったら遊んでやるぞ」と考えている生徒よりも、在学中ずっと熱心に勉強してくれる生徒や将来大成して出身大学の名を高めてくれる生徒が欲しいのです。

ということは、

①将来こういうことをして社会に貢献したいという**卒業後の目標**

②そのために大学でどんなことを学びたいのかという**入学の目的**

③そのことを考えるようになった**きっかけ**

がしっかりとと言える生徒が合格するということです。パンフレットの丸写しが駄目な理由がわかりますよね。

競争原理が生み出す

グローバル社会の基本的問題点

★キーワードは「格差(社会)」

*社会の中に居場所を見つけれない人と

そうでない人が分断される

*格差の拡大が貧困を生み出す

*現在、日本の貧困率は16%(6~7人に1人あたり)という数字で過去最悪

■教育の格差→親の収入や学歴によって子供の将来が決定される
■医療・健康格差→貧困に陥り、医療をきちんと受けられない
■地域の格差→高齢化と人口減少による地域社会の衰退
■世代間格差→グローバル化を境にした旧世代と現世代の格差

Ⅲ. AIは入試でどのように出題されるか

- 国公立大・私立大両方にまたがって、幅広く出されているが、推薦での出題が目立つ
 - AI搭載のロボットの活用が、人間の雇用にどう影響するか、ロボットとどう共存するかというのが基本テーマ
 - どのような仕事、どのような人が生き残るかという新しい格差問題が生まれてくる
 - 少子高齢化が進む日本社会では、労働力確保のため、こうしたスマートマシンの導入が避けられないというジレンマ
 - 今後も人間主導によるロボットとの共生は可能だが、そのための変革プランは不可欠というのが一応の方向性
 - AIは社会的なビッグイシューだが、まだ日常に浸透していく見通しは不確定な要素が多く、入試では短期間のテーマになるのではないかと
- ⇒筑波大情報学群、岩手県立大社会福祉(推)、宮城教育大(推)、群馬県立女大(実学)、横浜市大経営科学、新潟大経済、岐阜大医(推)、富山大経済(推)、芸術文化、造賀大教育(推)、鳥取大地域(推)、広島県立大経営情報(推)、長崎大教育(推)、経済(推)、長崎県立大経営、熊本県立大総合

いい志望理由書のポイント

I. 具体的であること=その生徒でなければ書けないもの

- 具体的なきっかけはあるが深まっていけない。きっかけが長すぎる
- 自分で調べたこと、経験したこと、取材したこと、自分の深い思いが必要

II. 将来、大学で学びたいことがデザインされている

- 社会で何をしたいために、大学で何を学ぶかを明確にする
- 漠然とした一般論に終始しているものが多い

III. パンフレットの引き写しをしない

- 学部・学科の特徴を書くのにパンフレット情報の写しで終わる生徒が多い
- いい志望理由書は大学をほめることではない

